

科目名 (科目番号)	臨床実習Ⅲ (画像技術) (052203)	教員名	診療放射線 学科教員	学科等	診療放射線	必修	履修年次	4
				曜日・時限等	時間割表参照	単位数	4	
				オフィスアワー		各担当教員シラバス参照		
授業概要	診療画像技術学分野で学んだ事柄のうち、主にデジタル画像装置、X線CT、MRIおよび超音波検査等で用いられる装置の取扱い、各種の画像検査法と適応疾病および診断の特殊性について演習を通して理論的に体系づけを行い、様々な画像診断に迅速に対応できる能力を身につける。また診療画像技術学関連の国家試験問題への対応をはかるとともに、診療放射線技術の現状と課題に関する認識を深め、探究する能力を養う。							
準備学習								
授業計画	授業項目		到達目標・学習内容					
	<p>到達目標:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 実習の目的を明確にできる。 2 患者の様態に応じた適切な取り扱いができる。 3 検査内容を患者に説明できる。 4 X線CT撮影を理解する。 5 時期共鳴画像の撮影を理解する。 6 磁気共鳴画像の撮影に関する危惧を説明できる。 7 超音波検査を理解する。 8 眼底検査を理解する。 9 画像検査を理解する。 10 画像の電子保管業務を実施できる。 11 実習の成果をまとめ、報告する。 <p>学習内容:</p> <p>この実習では、主に人体各部位のX線CT検査、磁気共鳴画像(MRI)検査および超音波検査などの実際を経験し、精度の高い診療画像技術を習得する。実習期間は4週間とし、実習期間中は臨床実習指導者の指示に従い行動する。主な内容は以下の通り。</p>							
成績評価の方法・基準	実習態度、レポート、OSCE、臨床実習指導者からの報告等で学内評価を行う。最終評価は、実習先病院の指導者を含めた実習連絡会議で決定する。							
教科書	図解 診療放射線技師実践ガイド第3版		遠藤啓吾編			文光堂		
参考図書	診療放射線技術 上巻 改定第13版		小塚隆弘、稲邑清也 監修			南江堂		
教員からのメッセージ	学内で実施したX線撮影やCT検査の練習を思い出して、実践に臨んでください。臨床先の職員や患者とのコミュニケーション能力も身に付けて下さい。							